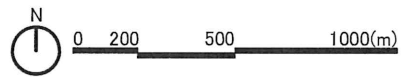


商都米子の歴史と自然が生んだ二つのウォーカブルエリア
米子城下エリア・皆生温泉エリアをつなぐ都市構造



- : みちまちハブ
- : かわまちハブ
- : えきまちハブ
- : 都市再生整備計画区域
- : 都市機能誘導区域
- : バスルート(だんだんコース)
- : バスルート(まちなかコース)
- : バスルート(歴史コース)

米子城下ウォーカブルエリア

- ・小路の残る城下町に、外堀から続く加茂川が交わる動的なまちの構造と新しくなる米子駅・米子港が一体となった「かわ+まち」ウォーカブルエリアの創出
- ・駅や公会堂、港、河岸など既存の都市インフラを活かしたモビリティハブのネットワーク構築によりワンマイルの移動を支え、エリア内の移動選択性を高める。



加茂川広場を「かわまちハブ」に

ふたつのウォーカブルエリアをつなぐ

米子電気軌道跡(皆生通り)

皆生温泉を開発した有本松太郎が残した「2つの海」をつなぐ都市軸

都市機能誘導区域(米子駅周辺)

皆生車尾線

日野川

民間開発予定地(旧野球場用地)

米子港

加茂川広場

遊覧船乗場

本通商店街

米子城跡

コンベンションセンター

米子駅

目久美公園

公会堂

博労町駅

東山公園駅

米子環状線

皆生と市街地をつなぐもう一つの路線
東に大山を望む



だんだん広場を観光や防災の拠点に



観光センターをトランジットハブに



大山を望む車尾線が城下と皆生をつなぐ



富士見町駅を「えきまちハブ」に



公会堂前バス停を「みちまちハブ」に



駅前通りの空間再配分



河川沿い空間を「かわまちハブ」に

日本海

皆生温泉ウォーカブルエリア

- ・ウォーカブルなまちづくりに向けた計画・実践が先行
- ・海沿い遊歩道から四条通り(Tライン)の空間改変とエリア玄関口としての観光センターの活用

商都米子を育てた「街道文化」「水運文化」「鉄道文化」が
つながることで生まれる「かわまちウォーカブル」の実現

商都米子を育てた「街道文化」「水運文化」「鉄道文化」が
つながることで生まれる「かわまちウォーカーブル」の実現

